

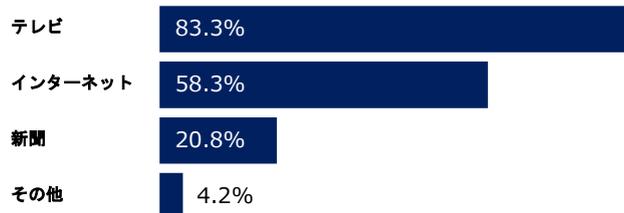
新年度スタート

先行きは見えないまま…

新年度が始まりましたが、新型コロナウイルスによる感染拡大の問題が徐々に大きくなり、いつ今の状態が終わるのか、先は見えないままです。日本語・パソコン教室も、授業時間を短縮して一度は開講しましたが、すぐにまた休講となりました。

このような、今まで誰も経験したことのない状況の中で、帰国者のみなさんはどんなことを感じているのか、どんな不安を抱えているのか、日本語教室の受講生を中心にアンケートを実施しました。小規模のアンケート(回答者数24名)ではありますが、帰国者のサポートを考えたうえで、参考となる結果が得られました。

Q 1. 新型コロナウイルスに関する情報をどのよう
に得ていますか。(複数回答可)



Q 2. どの言語で情報を得ていますか。(複数回答可)

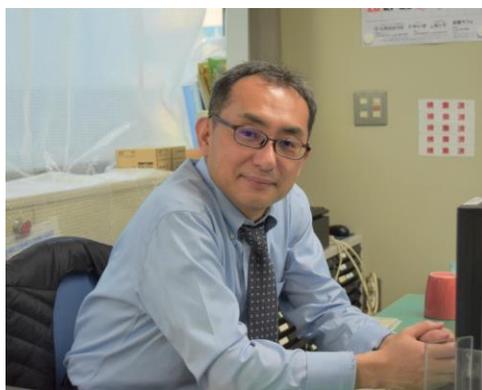


情報源として一番多かった回答は、いつでも見ることのできる日本のテレビ。どの言語で情報を得ているかという設問で、一番多い答えが日本語であることから、そのことが伺えます。心配されるのは、テレビの内容をすべて理解できているわけではなく、誤解もありうるということです。次に多かったのがインターネットで、この場合は母語で情報を得ている場合が多いようです。

新所長を迎えました！

着任のごあいさつ

北海道中国帰国者支援・交流センター所長
忽蘭 昌裕



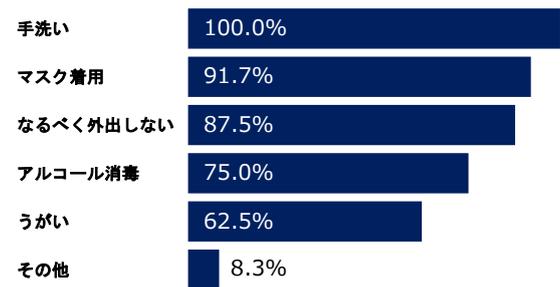
帰国者のみなさん、はじめまして。4月からセンター所長に着任しました。センターの仕事を担当するのは初めてですが、みなさんのお力になれるよう努めて参ります。

みなさんにとっては、老後の生活や健康のこと、仕事や進路の不安をはじめ、特にいまは全国、全世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大している状況など、たくさんの不安や悩みがあることと思います。

みなさんが多くの心配ごとを抱えていても、みなさんの地域で安心して生活できるようセンターが拠り所となって様々な取り組みに努めていきますので、ぜひセンターを活用いただけたら幸いです。

そしてさいごに、手洗いやうがい、十分な睡眠を心がけるなど、どうか、この新型コロナウイルス感染症予防のため、健康に留意してお過ごしくださいますようお願いいたします。

Q 3. ①予防のためにどのようなことをしていますか。(複数回答可)

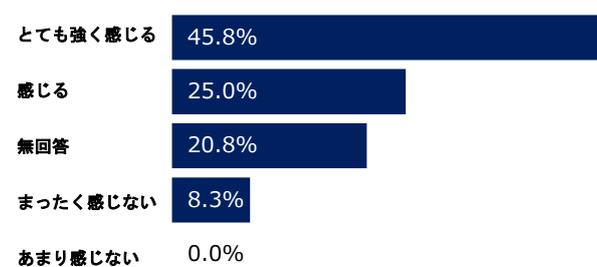


予防に関しては、大部分の人が一般的に推奨されていることをやっています。「外から帰ったら、手だけでなく顔も洗う」「家の中もこまめに消毒し、清潔にしている」という回答もありました。

②(「なるべく外出しない」を選んだ方へ) 外出しないことでストレスを感じますか。ストレス解消や健康のためにしていることはありますか。(自由記述)

外出しないことでの何らかのストレスは、やはり大部分の人が感じているようで、体操、音楽鑑賞、読書などをするという回答のほか、テレビを見るという回答もありました。テレビから情報を得ることで、さらに気がめいってしまわないか、という心配もあります。

Q 4. 今後の新型コロナウイルスに関する状況について不安を感じますか。



今後については、ほとんどの人が当然ながら不安を抱えており、半数近くの人が「とても強く感じる」と答えました。

最後に、感じていること、心配なことを自由に書いてもらいました。「早く感染者が減って、この状況が終わってほしい」「人がどんどん死んでいって怖い」「家族や親戚、友達のことが心配」「日本にはいない子供たちのことが心配」など、現在の状況と今後に対する不安の思いが多く見られました。

気遣ってほしい「心の健康」

体を守ることはもちろん大事ですが、心の健康も大事です。帰国者のみなさんには、好きなことに取り組んで気分転換をするなど、家の中でも工夫して過ごしてほしいと思います。親しい人と連絡を取って気持ちを共有したり、元気でいることを知ることも効果的です。

当センターでも、電話による見守りや、必要に応じた情報提供等に努めていきたいと思っております。

カレンダーリサイクル市

社会参加の機会



「文字」、「絵」、「これは文字」と声を出しながら、カレンダーの仕分け作業に打ち込む帰国者のみなさん。1/5～1/9まで行われたカレンダーリサイクル市での光景です。今年も帰国者有志がボランティアとして参加しました。ほとんどの人がすでにカレンダー市は経験済み、戦力になることができました。

帰国者は、どうしても家の中や帰国者同士の小さな輪の中に閉じこもりがちですが、ボランティア活動は社会参加の機会、また日本語を使う良い機会となります。単純な表現や単語だけでも、間違ってしまうと、一生懸命に周りのボランティアさんとコミュニケーションをはかりながら作業していました。ボランティアさんの中には、中国・樺太残留邦人について関心をもってくれた方もいました。

自分のできることをして、周囲に何らかの影響を与え、自分自身を向上させる。まさにボランティア精神を実践する時となりました。

2020 中国帰国者新年交流会

この地に根を下ろし、広がる世代間の交流



2020年の春節を迎え祝う中国帰国者新年交流会が、1月26日に開かれました。この日を楽しみにしていた帰国者のみなさん、ボランティアのみなさん計100人が会場の東区民センターに集まりました。

この交流会は、みんなが力を合わせた手作りの会です。帰国者による心づくしの餃子など、お正月には欠かせない中国料理がテーブルに並べられました。

はじめは腰鼓隊の音に合わせて大頭人が踊りながら入場。たちまち会場は懐かしい中国の色に染まりました。当センター所長が中国語であいさつをすると、拍手喝采が起こり、会は一気に盛り上がりました。続いて民族舞踊、中国の歌、胡弓など多彩な演目が披露されました。

帰国者同士が顔を合わせると、すぐにおしゃべりの輪が広がります。「今年の会はとても雰囲気が良い」と口々に言う一世、二世も「こういう交流の場所がうれしい」と笑顔です。今年も三世、そして四世も参加。帰国してから30年以上の年月が過ぎ、帰国者家族がこの地にしっかりと根をおろしたことが感じられる時でした。

ボランティアの皆さんも異文化体験を楽しみ、「いろいろ知ることができた」と交流の意義を感じ取っていました。

最後は毎年恒例、全員が参加しての大秧歌。踊りの輪とみんなの笑顔が会場いっぱいになり、今年も次の一歩へ希望に満ちた会になりました。

旭川・おしゃべり交流会

それぞれの食文化を体験



1月22日の旭川のおしゃべり交流会は、帰国者7名、ボランティア・支援者10名が参加し日本とロシアの正月料理をつくりました。

日本料理のメニューは、うま煮、巻き寿司、伊達巻、栗きんとん。ロシア料理は、ミートボールスープ、オリヴィエサラダ、揚げパン。見た目からも味からも、それぞれの食文化の特徴を知る機会となりました。ロシア料理はボリュームはたっぷりですが、塩中心のシンプルな味付け。それに対し日本料理はすべてのメニューに砂糖が使われ、全体的に甘口。お正月らしい華やかさを出そうと、ボランティアさんがあらかじめ準備してきた色付き寒天や、折り紙で作った小さな扇子などがお料理に飾られたのも、樺太帰国者にとっては珍しく、興味深い光景だったようです。

特に人気だったメニューは、「フボーロスト」とよばれるロシアの揚げパン。レシピを知りたいという声がたくさん出ました。

試食しながらお正月の過ごし方や、お料理のレシピ、今年みんなで行いたいことなどをひとしきりおしゃべりし、楽しい交流の時をもつことができました。

今後の予定について

日本語・パソコン教室、また太極拳、絵てがみ、かしょうけんこう、ぶんか、かつどうきょうしつ、手紙、歌唱、健康運動の文化活動教室は、5月末まですべてお休みとなります。その後の教室、行事等の開催については未定です。決まり次第ご連絡いたします。

退任のごあいさつ

北海道中国帰国者支援・交流センター前所長

とみた あきら
富田 彰



4月から別の仕事を担当することになりました。一年間という短い期間でしたが、みなさんにはたいへんお世話になりました。センターでは、とても楽しく仕事をさせていただきました。ほんの少しですが、交流会などでのあいさつのために、中国語やロシア語を覚

えたりもしました。どちらの言葉も難しく、中国語、ロシア語をカタカナにしてもらい、さらに話す言葉を録音してもらい、それを繰り返し、繰り返し聞いて、やっと覚えられました。中国語やロシア語であいさつするときにはとても緊張しましたが、あいさつを聞いた帰国者の方々があなづいてくれているのを見たときはとてもうれしかったです。

私の母は、もう他界していますが、樺太生まれです。戦争前に北海道に引っ越しました。私は母から樺太のことをあまり聞いたことがありませんでしたので、樺太、サハリンという地名を聞くと、ただ漠然と母が生まれた場所というだけの印象でした。しかし、帰国者の方々などのお話を聞いたり、当時の写真などを見せてもらうと、樺太、サハリンをとても身近に感じる事ができ、母の幼い頃の暮らしに思いをめぐらせることもできました。

帰国者のみなさんは、戦争のために現地でつらい思いをし、日本に来てからも言葉の問題など、暮らしていくうえでのご苦労が続いている方も多いことと思います。センターでは、スタッフが少しでもみなさんのお力になれるように頑張っていますので、何かあったらご相談ください。そして、どうか、いま暮らしている日本の文化も、みなさんのふるさとである中国、樺太の文化も、両方を大切に暮らしていただければと思います。

担当する仕事は変わりますが、センターのある建物にはいますので、センターに通っている方々とはまたお会いできるかもしれませんね。見かけたら声をかけてください。それでは、みなさん、お世話になりました。ありがとうございました。